

主題研究

# 児童生徒の資質や能力を高める 指導と評価に関する研究

- 教科の指導において「学力」を適切にとらえるための  
評価規準と評価方法の開発を中心に - (第3報)

「指導と評価」研究班

紺野 盛 大倉 徹  
島山 剛 関向 正俊

研究協力校

花巻市立若葉小学校  
花巻市立花巻中学校  
花巻市立湯本中学校

研究協力員

滝沢村立滝沢第二小学校 小山田 吉 光

## 研究の概要

この研究は、「学力」を適切にとらえるための評価規準と評価方法を開発することにより、児童生徒の資質や能力を高める指導と評価について明らかにし、小学校・中学校・高等学校の教科の学習指導の改善に役立てようとするものである。

3年次計画の最終年度にあたる本年度は、一昨年度作成した推進試案と昨年の実践成果と課題を基に、中学校社会科、理科、図画工作 / 美術科、技術・家庭科の指導と評価の計画を作成し、授業実践を行い、その結果の分析と考察を通して、推進試案に基づく指導と評価の計画の妥当性の検討を行った。その結果、指導と評価の計画の妥当性について見通しをもつことができた。

キーワード：資質や能力 学力 指導と評価 学習指導 評価規準 評価方法

## 研究の目的

現行学習指導要領は、完全学校週5日制の下、教育内容を厳選し、ゆとりの中で学習指導要領に示す基礎・基本を確実に身に付け、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育成することを基本的なねらいとしている。このねらいは、日常の指導と評価の積み重ねによって実現されるものであり、日常の指導のなかで児童生徒の学習状況が適切に評価され、その後の学習に生かされることが重要である。そこで、これからの学習指導においては、この学習状況を適切にとらえるための評価規準と評価方法を開発・工夫するとともに、評価に基づく指導法を改善することが求められている。

そのためには、学力や評価に対する個々の教師の考え方を調査し、それを整理するとともに、児童生徒にはぐくみたい資質や能力等のいわゆる「学力」を適切にとらえる評価の在り方を明らかにする必要がある。また、学習指導では、児童生徒にどのような「学力」を身に付けさせようとするのかを明確にした評価規準を設定し、児童生徒が学習の過程において自分の学習状況に気付き、学習を見つめ直し、その後の学習の改善に役立てることができるように指導と評価を一体的に進めることが必要である。

そこで、この研究は、「学力」の概念を具体化するとともに、「学力」を適切にとらえるための評価規準と評価方法を開発することにより、児童生徒の資質や能力を高める指導と評価について明らかにし、小学校・中学校・高等学校の教科の学習指導の改善に役立てようとするものである。

## 研究仮説

全体研究仮説と各教科仮説を次のように考える。

### 1 全体仮説

「学力」を適切にとらえるための評価規準と評価方法を開発し、それをもとに学習指導の実践を行えば、児童生徒の資質や能力を高める指導と評価の計画について明らかにすることができるであろう。

### 2 各教科仮説

教科の指導において、次の3点に基づいた学習指導を推進していけば、児童生徒の資質や能力を高める指導と評価について明らかにすることができるであろう。

各教科における育てたい児童生徒の姿を具体的にすること

適切な評価の方法や用具を用いて児童生徒の目標の実現状況を的確に把握すること

児童生徒の自己実現に結び付く評価をすること

## 本年度研究の内容

### 1 研究の目標

児童の資質や能力を高める指導と評価についての推進試案に基づき、各教科の指導と評価の計画を作成する。それをもとに、授業実践を行い、その結果の分析と考察をとおして、推進試案に基づく各教科の指導と評価の計画の妥当性を検討する。

### 2 研究の内容

- (1) 各教科の指導と評価の計画の作成
- (2) 指導と評価の計画に基づく授業実践と実践結果の分析・考察
- (3) 児童生徒の資質や能力を高める指導と評価に関する各教科の研究のまとめ

## IV 各教科の研究の概要

### 1 中学校社会科の概要

(1) 社会科における生徒の資質や能力を高める指導と評価についての基本的な考え方

ア 社会科における「学力」とは

平成10年7月の教育課程審議会答申において、次のような学習指導要領改善の基本方針が示されている。

- ・小学校、中学校及び高等学校を通じて、日本や世界の諸事象に関心をもって多面的に考察し、公正に判断する能力や態度、我が国の国土や歴史に対する理解と愛情、国際協力・国際協調の精神など、日本人としての自覚をもち、国際社会の中で主体的に生きる資質や能力を育成することを重視して内容の改善を図る。
- ・児童生徒の発達段階を踏まえ、各学校段階の特色を一層明確にして内容の重点化を図る。また、網羅的で知識偏重の学習にならないようにするとともに、社会の変化に自ら対応する能力や態度を育成する観点から、基礎的・基本的な内容に厳選し、学び方や調べ方の学習、作業的・体験的な学習や問題解決的な学習など児童生徒の主体的な学習を一層重視する。

また、現行学習指導要領（平成10年12月）には中学校社会科の各分野の目標は、次のように示されている。

#### 【地理的分野】

- ① 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土に対する認識を養う。
- ② 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでもとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色をとらえるための視点や方法を身に付けさせる。
- ③ 大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し、それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。
- ④ 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。

#### 【歴史的分野】

- ① 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解させ、それを通して我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。
- ② 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。
- ③ 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。
- ④ 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

#### 【公民的分野】

- ① 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。
- ② 民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深めるとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。
- ③ 国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。
- ④ 現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

以上のことから、中学校社会科における生徒に身に付けさせたい学力は、学習指導要領に示されている社会的事象についての知識・理解や関心・意欲・態度、社会的事象を観察する力や調査する力、各種の資料を活用する力、表現する力、社会的な思考力や判断力等の理解、態度、能力のすべてととらえられる。

そこで、本研究においては、学習指導要領に示されている理解、態度、能力のすべてを中学校社会科において育てたい学力ととらえる。



(3) 中学校社会科の1単元の指導と評価の計画

(歴史 教出 第3章 中世の日本と世界 第1節 武家政治の始まりを例として示す)

ア 適切な評価方法を用いて生徒の目標の実現状況を的確に把握すること

(ア) 適切な評価方法について

「学力」を観点別に **【表社1】本研究における評価方法**

評価しようとするれば、それぞれの観点にあった評価方法を選択しなければならない。様々な評価方法が考えられるが、本研究の実践においては、**【表社1】**に示す評価方法を用いることとする。

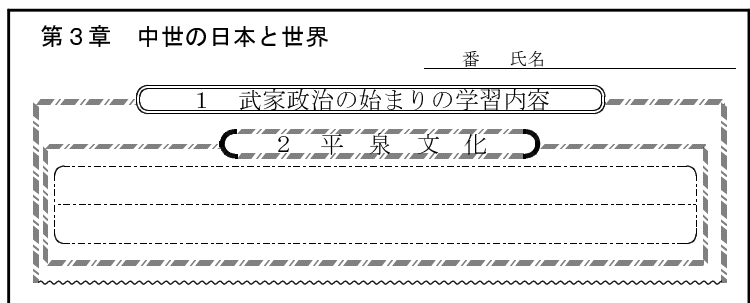
観点別学習状況の評価 単元の評価規準	主な評価方法
<b>社会的事象への関心・意欲・態度</b> 武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。	評定法 (単元学習カード、ノートへの記述、単元テストの感想の記述)
<b>社会的な思考・判断</b> 武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きから課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。	評定法 (ノートへの記述)
<b>資料活用技能・表現</b> 武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。	評定法 (資料選択の状況の観察、歴史新聞の記述)
<b>社会的事象についての知識・理解</b> 武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きを、我が国の歴史とかかわる東アジア世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。	テスト法 (小テスト、単元テスト)

(イ) 適切な評価の用具について

評価の用具とは、目標の実現状況を把握し判断するためのカードやチェックリストなどの用具と考える。本研究の実践においては、その用具として、単元カード、ノート、小テスト、単元テスト、歴史新聞を用いることとする。

① 単元学習カードについて

**【図社2】**は単元学習カードの抜粋である。このカードは、生徒の**【関心・意欲・態度】**の実現状況を把握するために用いるものである。単元の導入の時間に用い、次に学習する単元の内容を概観し、特に調べてみたい内容について、その項目と理由を記述するものとする。



**【図社2】単元学習カードの抜粋**

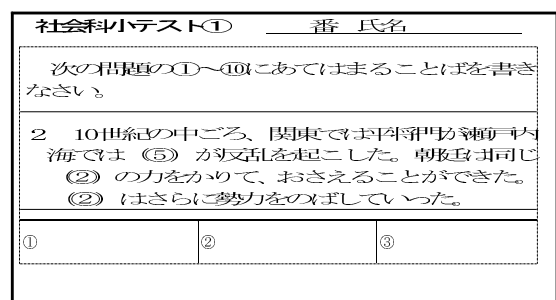
② ノートについて

ノートは、生徒の記述内容から、その時間の目標の実現状況を把握するために用いるものである。単元のどの時間にどの観点に従って実現状況を把握していくのかを単元の指導と評価の計画に位置付けていくこととする。

③ 小テストについて

**【図社3】**は本研究の実践における自作の小テストの抜粋である。小テストは単位時間の終わりに実施し、8割以上の得点で「B おおむね満足」と判断する。

このテストは、単位時間における**【知識・理解】**の観点を把握し、Bに達しなかった生徒への指導に役立つものである。小テストには、コメントを記述し、次時に返却することとする。



**【図社3】小テストの抜粋**

④ 単元テストについて

【図社4】は本研究の実践における自作の単元テストの抜粋である。

本実践の単元テストでは、単元全体を通した【知識・理解】の観点を把握することとし、単元の最後の時間に実施する。また、単元の【知識・理解】の観点の総括は、この単元テストを用いて行うものである。

「1 武家政治の始まり」 まとめテスト
2 次の文の (㉠) ~ (㉣) にあてはまる言葉を書きなさい。 (※同じ番号には、同じ言葉が入ります。)
(㉠) 9世紀になると有力農民の一部は、(㉠) に対する強い権利をもつようになり、しだいに(㉡)に成長していった。かれらはやがて武装集団をつくるようになり、(㉢)とよばれるようになった。このなかで、特に有力だったのが、東日本を基盤としていた(㉣)氏と西日本を基盤としていた(㉤)氏である。

【図社4】単元テストの抜粋

⑤ 歴史新聞について

本研究の実践においては、単元のまとめとして歴史新聞を作成することとした。歴史新聞は、【資料活用の技能・表現】の観点の実現状況を把握するために用いるものとする。

イ 1単元の評価規準の具体的な設定の手順について

【図社5】は、内容のまとめりごとの指導と評価の計画を基に、1単元の評価規準の設定を「歴史 教出 第3章 中世の日本と世界 第1節 武家政治の始まり」を例として示したものである。

③ 内容のまとめりごとの学習内容と評価規準 (5頁参照)	
④ 単元の目標と評価規準 (関心・意欲・態度・知識・理解を例として)	
単元の目標	武士が台頭し武家政権が成立したことで鎌倉幕府の成立、元寇とその間の東アジア世界とのかかわりに気付く。
観 点 別 の 目 標 ( 上 段 )	評 価 規 準 ( 下 段 )
社会的な思考・判断	社会的な事象についての知識・理解
武家政権の成立と鎌倉幕府の成立から課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察する。	武家政権の成立とその後の政治、社会の動きを我が国の歴史とかがわる東アジア世界の歴史を背景に理解している。
武家政権の成立、鎌倉幕府の成立を通して、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。	武士が台頭し武家政権が成立したことでその後の武家社会の展開を、我が国の歴史とかがわる東アジア世界とのかかわりに気付く、その知識を身に付けている。
⑤ 単位時間ごとの目標と評価規準・判断基準 (第1時)	
単位時間の目標	農村の変化の過程で武士がおこり、やがて大きな武士団となって反乱やその鎮圧を通じて実力を伸ばしていったこと、撰閣政治に対抗して始められた院政の下で、荘園の寄進が進み、院政と結んだ武士が中央に進出して平氏の政権ができたことを理解する。
評 価 規 準 ( 上 段 )	判 断 基 準 ( 下 段 )
社会的な思考・判断	社会的な事象についての知識・理解
絵画資料から、武士の生活や戦いの様子を推論できる。絵巻物に残されている絵画資料を観察し、自分の王地を守るために武装したことや馬に乗って弓矢を射ながら戦を行っていたことを指摘できる。(記述)	院の政治や平氏の政権が、荘園支配と武士の武力を基盤として豪族たちが理解し、国司に没収されるのを防ぐために、土地を荘園として寄進したことで、大きな力をもった院は、武士に警護をさせたこと、平氏も荘園などの権利を多数集めてきたことをまとめている。(記述)

【図社5】1単元の評価規準の設定例

ウ 単元の学習の総括について

単元の学習の総括については、各単位時間の観点別の学習状況に基づき、【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】【知識・理解】の4観点で総括するものとする。【表社2】は、単元の学習の総括について、【関心・意欲・態度】【思考・判断】の例を示したものである。

【表社2】単元の学習の総括の例

関心・意欲・態度	思考・判断
単元学習カード、第2時、第3・4時、第5・6時、単元の感想をABCで評価する。 Aが三つ以上であり、Cを含まない生徒は十分達成、Cが二つまでの生徒はおおむね達成ととらえる	第1時、第2時、第5・6時をABCで評価する。Aが二つでBが一つ以上の生徒は十分達成、Bが二つでCが一つ以上の生徒はおおむね達成ととらえる。

また、単元の学習の総括に当たっては、【図社6】に示すチェックリストを用いることとする。チェックリストは、単位時間の終了後にA(十分満足)、B(おおむね満足)、C(努力を要する)で記入し、単元の終了後に観点ごとに総括することとする。

1 武家政治の始まりチェックシート											
単元カード	関心・意欲・態度			思考・判断			技能・表現			知・理解	
	第2時	第3・4時	第5・6時	第1時	第2時	第5・6時	第3・4時	第5時	第7時	観点	単元
1	A	A	A	B	B	A	B	B	B	B	48
2	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	80
3	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	64
4	A	B	A	A	A	A	B	B	A	A	76
5	A	B	A	A	A	A	B	B	A	B	76

【図社6】1単元のチェックリストの例

エ 学習指導目標の実現状況を生徒個々へ知らせることについて

本研究における実践において、学習指導目標の実現状況を生徒個々へ知らせる段階として、「単位時間の中」「単位時間の終了後」「単元の終了後」の三つの段階を考えた。各段階で生徒へ知らせる方法や内容を示したものが【表社3】である。

【表社3】学習指導目標の実現状況を生徒個々へ知らせる方法と内容

① 単位時間の中で実現状況を知らせること	本研究の実践では、単位時間の中で生徒個々へ実現状況を知らせる方法として、机間指導の際に、言葉かけを行うこととした（教師は、座席表を持ち、実現状況を記入しながら）。また、机間指導では、ノートへの記述の状況が「B おおむね満足の状態」に達していない生徒には、個別の指導を行い、「A 十分満足の状態」の生徒には次の段階への指示を与えることとする。
② 単位時間の終了後に実現状況を知らせること	単位時間の終了後には、ノートを集め、生徒の記述を評価する。評価にあたっては、ABCの記号で実現状況を知らせる。また、単位時間ごとに小テストを行い、次時に小テストへのコメントを付して返却する。記述の状況、小テストの得点（8割以上はB）が「B おおむね満足の状態」に達していない生徒には、コメントの記述によって個別の指導を行うこととする。
③ 単元の終了後に実現状況を知らせること	単元の終了後、単位時間の学習の状況を総括した結果を生徒に知らせる。このときには、個々に「よくできている観点」を知らせ、次単元への意欲付けを図るとともに、4観点の中で「努力を要する状況 C」にとどまっている観点については、ふり返りの視点を与え、補充することとする。

オ 評価結果に応じた指導計画の修正・改善を図ること

評価は、教師にとっては、生徒が学習目標の実現に向けて、どのような点でつまづいているのかを把握し、教師自身の指導や経過をふり返るための材料にもなるものである。単位時間の評価結果が思わしくない状況にあるときには、単位時間の指導内容、指導方法等の修正・改善を行い、単元の評価結果が思わしくないときには、単元、年間の計画の修正・改善を行うことが大切である。

(4) 中学校社会科の1単位時間の指導と評価の計画

ア 1単位時間の評価規準の具体的な設定の手順について

【図社7】は、1単位時間の指導と評価の計画の例を示したものである。

単元名 中世の日本と世界 「1 武家政治の始まり」		6 / 9時	
1 本時の目標 元寇に関心をもち、モンゴル帝国とそれに対応する幕府の政策について理解する。			
2 展開 (▲は判断基準に達しなかった生徒、◎は判断基準に達した生徒への指導を示す)			
段階	学習活動	指導上の留意点	具体的評価規準
導入	1 本時の学習課題を設定する。 元寇とはどのような戦いだったのだろうか。	▲課題を設定することができない生徒には、互いの課題の交流の場をおしてつかませ、記述させる。	元寇に関心をもち、元寇に対応する幕府の政策について調べようとする。 【関心・意欲・態度】
展開	2 学習課題に対する予想を考え、発表する。 3 学習課題について調べ、発表する。 (1) 元軍と幕府軍の戦いについて調べ、発表する。 ・1274年→対馬・壱岐の占領→博多湾に上陸→幕府軍との激戦→元軍の引き揚げ ・幕府→博多湾の沿岸→約20kmの石	▲記述することができない生徒には、個別に視点を与える。 ◎記述することができた生徒には、さらに他の資料でも調べさせる。	元軍が引き揚げた原因は、御家人の奮戦であること、元寇の戦いや準備により、御家人の生活がいつそう苦しくなってきたことについて記述している。(ノートへの記述)
終末	4 本時の学習のふり返りをする。 ・小テストにより、ふり返りを行う。 5 次時の学習は、歴史新聞作りをすることを確認する。	▲記述できない生徒には、個別の指導を行う。	元寇の概要と元寇が幕府に与えた影響が分かる。 【知識・理解】
			判断基準・評価方法 前時の学習を想起し、蒙古襲来絵詞の資料から、元寇について調べる学習課題を設定している。(ノートへの記述)
			元軍が敗退した原因と元寇が幕府に与えた影響を考察している。 【思考・判断】
			穴埋め問題で、設問10問中8問に正答することができる。(小テストへの記述)

【図社7】1単位時間の指導と評価の計画の作成の例

(5) 中学校社会科の研究のまとめ

ア 生徒の資質や能力を高めるための指導と評価を行ううえで、中学校社会科における「学力」を適切にとらえるための評価規準や評価方法を位置付けた指導と評価の計画は妥当であるという見直しをもつことができたこと

イ 指導と評価の計画を、評定と結び付いた評価という観点で見直し、日々の授業に生かす評価項目と総括的な評価（評定）に用いる評価項目の位置付け方を検討すること

【主な参考文献】

北夫倫彦・桑原利夫 編集、「観点別学習状況の評価規準表 中学校社会」、図書文化、2002

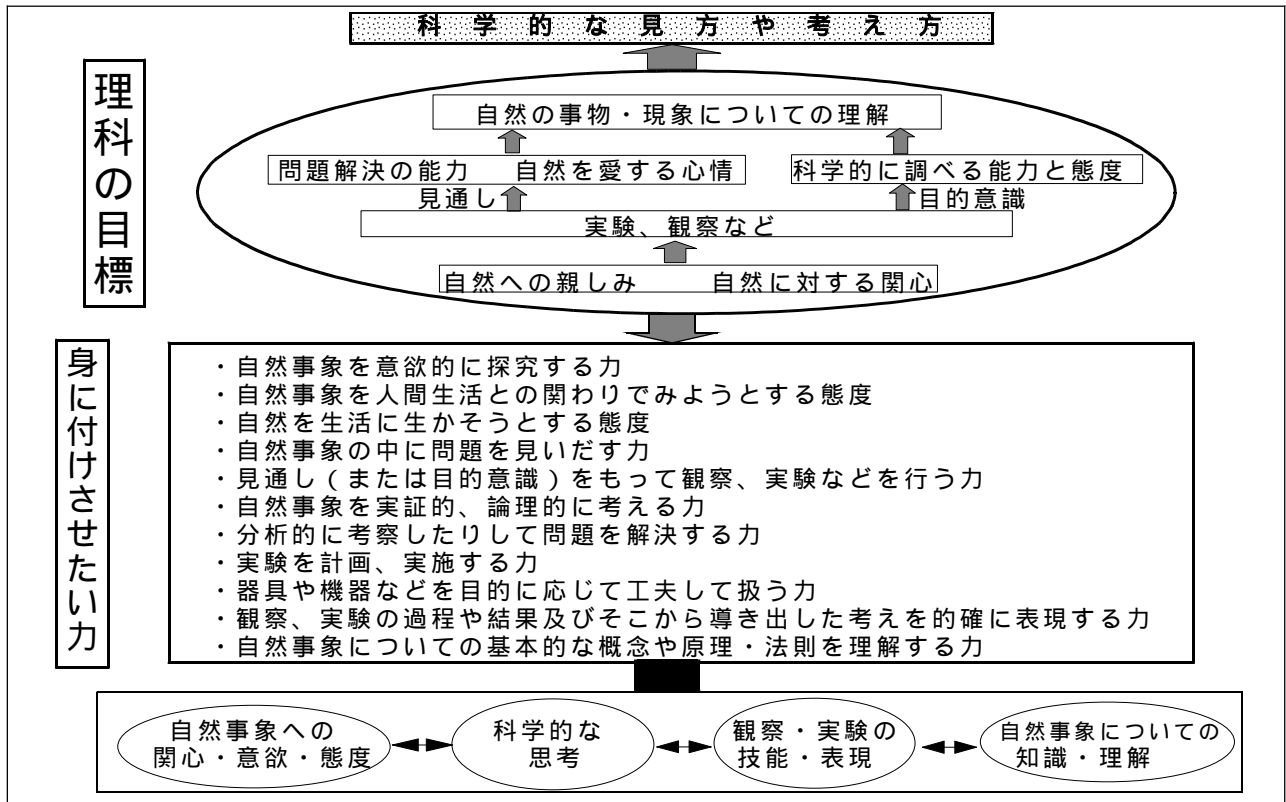


## 2 理科の概要

### (1) 理科における児童生徒の資質や能力を高める指導と評価についての基本的な考え方

#### ア 理科における「学力」とは

本研究においては、基礎的・基本的内容に関する知識や技能だけでなく、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力などまでも含めた力を、理科において育てたい学力ととらえた。理科で身に付けさせたい力と、教科の目標との関連で整理してみると【図理1】のようになる。

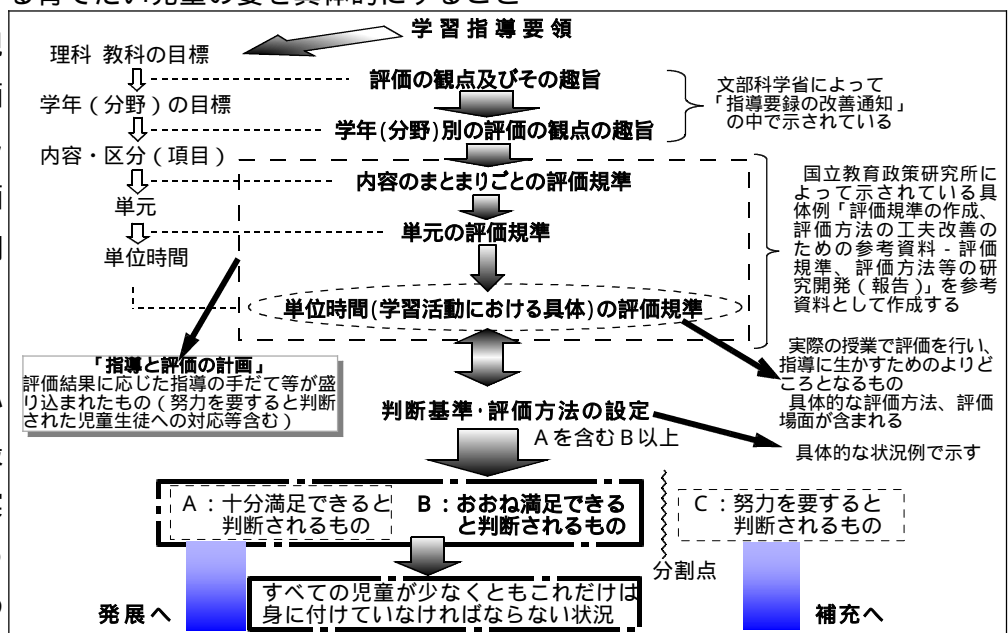


【図理1】理科の目標と身に付けさせたい力の関係

### (2) 理科の指導と評価の計画

#### ア 理科における育てたい児童の姿を具体的にすること

理科の目標を実現するためには、評価する内容を明確にし「単元の目標の評価規準」と「単位時間（学習活動における具体）の評価規準」の二つを設定する必要がある。また、設定した評価規準が実現されているかどうかを判断するための判断基準及び評価方法



【図理2】評価規準設定の手順



を設定する。前頁【図理2】は、これらの評価規準設定の手順を示したものである。

(3) 理科の「学力」を適切にとらえるための評価方法の工夫

目標の実現状況を把握する方法（評価方法）としては、観察、作品分析、ノートやワークシート、レポートの分析、ペーパーテスト、質問紙、実技テスト、面接、自己評価、相互評価などがある。これらの方法を用いる場合、評価の観点に対応した適切なものを選択することはもちろん、学習活動の

【表理1】理科における主な評価方法

評価の観点	評価の視点(～できる) <sup>1</sup>	主な評価方法及び用具
自然事象への 関心・意欲・態度	気付く・疑問をもつ 質問する 繰り返し行う・取り組む・熱中する ・進んで～する 詳しく調べる 活用する 新しい課題を見つける	行動観察 発言、発表、挙手、つぶやき ノート、ワークシート、レポート等 パフォーマンステスト 自己評価法・相互評価法
科学的な思考	問題を発見する 予想する(仮説を立てる) 分析する(実験結果から結論を導く) 解決する・一般化する (と関連づける、違いに気付く、違い や共通点を見いだす等)	行動観察 発言、発表、挙手、つぶやき ノート、ワークシート等 レポート パフォーマンステスト ペーパーテスト 概念地図法 自己評価法・相互評価法
観察・実験の 技能・表現	計画する 操作する(測定する、加熱する等) 記録する・まとめる(メモする、グ ラフ化する、表にする等) 伝達する(文章にする、発表する等)	行動観察 発言、発表、挙手 ノート、ワークシート、レポート等 パフォーマンステスト ペーパーテスト 自己評価法・相互評価法
自然事象につい での 知識・理解	記述する(言う、書く)・分類する 計算する 説明する	発言、発表、挙手 ノート、ワークシート、レポート等 パフォーマンステスト ペーパーテスト 概念地図法 自己評価法・相互評価法

<sup>1</sup>「評価の視点」とは行動目標に対応した視点の意 <sup>2</sup>は最適、は適

どの場面で、どのような視点(行動目標に対応した視点)で用いればよいのかを明らかにしながら使うことが大切である。【表理1】は理科における主な評価方法を示したものである。

ア 適切な評価のためのポイント

【表理2】は適切な評価のためのポイントをまとめたものである。

前述した「観察、作品分析、ノートやワークシート、レポートの分析、・・・」などの評価方法は「いつ」「どこで」「だれが」「だれを」等を意識して用いられることにより、児童生徒の活動場면을想起しやすくなり、より具体的かつ適切な評価が可能になると考える。

【表理2】適切な評価のためのポイント

ポイント	とらえ方	分類：その具体例
評価時期	「いつ」 評価するのか	授業中 授業後 単元末 等
評価場面	「どこで」 評価するのか	個人作業(学習)中：シート記入中 等 グループ学習中：実験場面、話し合いの場面 等 一斉指導中：発言場面 等
評価者	「だれが」 評価するのか	教師 生徒 { ・自己 ・相互
評価の対象	「だれを」 評価するのか	児童生徒全員 一部の児童生徒 { ・意図的、計画的に行う場合 ・具体的変化がみられた場合
具体的な 評価方法 (手段)	「どのように」 評価するのか	観察：机間巡視による作業状況の観察、行動観察、発言分析 記録：記述内容の分析、記録内容の分析 等 面接：口頭試問 等 テスト：ペーパーテスト、パフォーマンステスト 等
評価用具 (評価資料)	「なにで」 評価するのか	ワークシート レポート ノート 記録用紙：観察記録用紙 等
評価の観点	「なにを」 評価するのか	関心・意欲・態度 科学的な思考 観察・実験の技能・表現 知識・理解 } 評価の視点 「なにができればよいのか」 【表2】 理科における主な評価方法 参照
評価の 記録方法	「なにに」 評価を残すのか	評価記録簿 座席表 名簿 チェックシート 等

(4) 理科の1単元の指導と評価の計画

【表理3】は、単元の目標から単位時間の指導と評価の計画表を2分野「太陽系の天体」を例として示したものである

【表理3】1単元の指導と評価の計画表

中学校3年理科第2分野「太陽系の天体」指導と評価の計画表					
単元の学習指導と評価の計画					
単元名	単元の学習内容	自然現象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然現象についての知識・理解
太陽系の天体	イ 太陽系と惑星 (7) 太陽、惑星とその公転の観測記録や資料に基づいて、太陽系の特徴を見だし、恒星と惑星の特徴を理解すること。また、太陽系と惑星の公転と関連付けて太陽系の構造をとらえること。	太陽、惑星、恒星とその動きの観測を行い、その観測記録や資料に基づいて太陽系の特徴を見だし、恒星と惑星の特徴を理解するとともに、惑星の公転と関連付けて太陽系の構造をとらえ、天体に対する興味・関心を高める。	太陽、惑星、恒星とその動きの観測を行い、その観測記録や資料に基づいて太陽系の特徴を見だし、恒星と惑星の特徴を理解するとともに、惑星の公転と関連付けて太陽系の構造をとらえること。	太陽、惑星、恒星とその動きの観測を行い、その観測記録や資料に基づいて太陽系の特徴を見だし、恒星と惑星の特徴を理解するとともに、惑星の公転と関連付けて太陽系の構造をとらえること。	太陽、惑星、恒星とその動きの観測を行い、その観測記録や資料に基づいて太陽系の特徴を見だし、恒星と惑星の特徴を理解するとともに、惑星の公転と関連付けて太陽系の構造をとらえること。
単位時間ごとの計画					
学習活動における単元の評価規準(上段)					
判断基準(下段)					
目標	学習内容・活動	自然現象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然現象についての知識・理解
第1目標	太陽系の表面のようすから太陽の特徴について考察することができる。	【関1】天体望遠鏡による太陽の観察に関心をもち、意欲的に取り組むことができる。	【思1】太陽黒点の移動や形の変化をから太陽の特徴を指摘することができる。	【技1】天体望遠鏡を操作して太陽の黒点の観察を行うことができる。	【知1】観察記録や資料にもとづいて、形や大きさなど太陽の特徴を知るとともに、恒星と惑星の特徴を比較して理解し、知識を身につける。
第2目標	太陽系の表面や内部のようすについての説明を聞き、黒点の位置や形のデータから太陽の自転や形について考察することができる。	【関1・B】望遠鏡の使い方についての説明を聞き、太陽から放出されたエネルギーが地球にあたえる影響について考える。	【思1・B】黒点の移動や形の変化をから太陽の特徴を指摘することができる。	【技1・B】望遠鏡を操作して太陽の黒点の観察を行うことができる。	【知1】観察記録や資料にもとづいて、形や大きさなど太陽の特徴を知るとともに、恒星と惑星の特徴を比較して理解し、知識を身につける。
第3目標	太陽系内の天体とその特徴について説明を聞き、確認テスト「確かめの問題」太陽黒点観察記録を提出する(1回目)	【関2】太陽系内の天体とその特徴について説明を聞き、確認テスト「確かめの問題」太陽黒点観察記録を提出する(1回目)	【思2】金星の見え方について、地球や金星の公転運動と関連付けて考えることができる。	【技2】天体望遠鏡を安全に操作して太陽の黒点の観察を行うことができる。	【知2】太陽系内の天体を示すことができる。
第4目標	惑星や小天体、太陽系の外に広がる宇宙に関心をもち、さらに自ら課題を設定し意欲的に調べようとする。	【関3】惑星や小天体、太陽系の外に広がる宇宙に関心をもち、自ら課題を設定し意欲的に調べようとする。	【思3】太陽系内の天体とその特徴について説明を聞き、確認テスト「確かめの問題」太陽黒点観察記録を提出する(2回目)	【技3】太陽系内の天体を示すことができる。	【知3】太陽系内の天体を示すことができる。
第5目標	設定した課題について図書や資料、インターネットなどを使って調べ、発表できるようにまとめることができる。	【関4】設定した課題について図書や資料、インターネットなどを使って調べ、発表できるようにまとめることができる。	【思4】仮説を立て、根拠を明らかにしながら結論を導き出すことができる。	【技4】調べた内容をわかりやすく、まとめることができる。	【知4】調べた内容をわかりやすく、まとめることができる。
第6目標	仮説を立て、根拠を明らかにしながら結論を導き出すことができる。	【関5】仮説を立て、根拠を明らかにしながら結論を導き出すことができる。	【思5】発表に対して自分の意見を述べることができる。	【技5】発表に対して自分の意見を述べることができる。	【知5】発表に対して自分の意見を述べることができる。
第7目標	レポートの発表を聞き、自分のレポートの改善に役立てることができる。	【関6】発表を聞いて、自分のレポートの改善に役立てることができる。	【思6】発表を聞いて、自分のレポートの改善に役立てることができる。	【技6】発表を聞いて、自分のレポートの改善に役立てることができる。	【知6】発表を聞いて、自分のレポートの改善に役立てることができる。
第8目標	観察記録と手直したレポートを提出する。	【関7】観察記録と手直したレポートを提出する。	【思7】観察記録と手直したレポートを提出する。	【技7】観察記録と手直したレポートを提出する。	【知7】観察記録と手直したレポートを提出する。
単元の学習指導と評価の計画(まとめ)					
各単位時間の観点別の学習状況の総括(どう処理するか)	自然現象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然現象についての知識・理解	評価結果に応じた指導
	各観点ごと A=1、B=0、C=-1としてその平均を求め A > 0.5、0.5 > B > -0.5、-0.5 > C				Bに達しない観点については各単元の具体的な評価規準を振り返る形で個別指導を行う。特に興味・意欲・態度については、金星観測会や企画し、宇宙への興味を高める機会を設ける。

(5) 理科の1単位時間の指導と評価の計画

ア 1単位時間の評価規準の具体的な設定の手順について

【図理3】は、単位時間ごとの目標と評価規準・判断基準を基に、1単位時間の指導と評価の計画を2分野「太陽系の天体」を例として示したものである。

単位時間ごとの目標と評価規準・判断基準（第1時）									
単位時間の目標 太陽の表面のようすから太陽の特徴について考察することができる。									
単位時間（学習活動における具体）の評価規準（上段）					判断基準（下段）				
自然事象への関心・意欲・態度			科学的な思考			観察・実験の技能・表現			
【関1】天体望遠鏡による太陽の観察に関心をもち、意欲的に取り組むもうとする。 【関1-B】望遠鏡の使い方についての説明をしっかりと聞いている。 [行動観察]			【思1】太陽黒点の移動や形の変化から太陽の特徴を指摘することができる。 【思1-B】黒点が東から西に移動していることから太陽の自転を指摘できる。または、黒点が周辺部では扁平していることから太陽が球体であることを指摘できる。 [観察・発言分析・ノート]			【技1】天体望遠鏡を操作し太陽の黒点の観察を行うことができる。 【技1-B】以後の黒点観察を行い観察記録用紙に記録することができる。 [行動観察・観察記録用紙：後日]			
理科の1単位時間の指導と評価の計画表									
単元名「太陽系の天体」(1/8時)									
1 目標 太陽の表面のようすから太陽の特徴について考察することができる。									
2 展開 ( は判断基準に達しなかった生徒、 は判断基準に達した生徒への指導を示す)									
段階	学習活動	主な教材		予想 生徒の反応など				指導上の留意点 (評価結果に応じた指導)	
		時期	場面	判断基準		用具	記録方法		
導入	1 太陽表面に出現する黒点の写真を見る。	・黒点写真 ( OHP )		・この黒い点は何だろう？ ・黒点というんだな。					
	2 本時の学習課題を確認する 太陽黒点が移動するようすからわかることはなんだろう								
展開	3 黒点が移動するようすからわかることを、理由を添えて各自ノートに記入する。 ・太陽は自転している ・形は球形である ・約1か月で自転している ・東から西に自転している など			・太陽の表面はすごく熱いんだな。 ・黒点は温度が低いんだな ・黒点はなぜ移動しているんだろう、周辺にいくとなぜつづれているんだろう？ 【思1-B】黒点が東から西に移動していることから太陽の自転を指摘できる。または、黒点が周辺部では扁平していることから太陽が球体であることを指摘できる。				（思1）双方とも理由とともに指摘できている生徒には他にわかることがないか考えるよう指導する。 （思1）指摘できない生徒には他の生徒の発表を聞いてわかったことをノートに付け加えるよう指導する。	
	4 各自ノートに記入したものをもとに発表し合う。	本時授業中 授業後	ノート記入中 発表中	教師 生徒全員	一部の生徒 観察 発言分析 記録内容の分析	用具 ノート	記録方法 授業後、ノート点検して評価記録簿に		
展開	5 発表を聞いてわかったことをノートに付け加える。	・黒点動画 ( PC , プロジェクター )		・そうか、それは気づかなかった。					
	6 皆既日食の映像と気温の変化のグラフからどのようなことがわかるか考え、発表し合う。	・皆既日食動画 ・気温変化グラフ		・皆既日食で太陽が隠されるとそんなに気温が下がるのか。					
展開	7 太陽の表面や内部のようすについての説明を聞く。	・プロミネンス動画		・太陽がなくなったらどうなるのだろう。					
	8 太陽の特徴と、太陽のエネルギーが地球に及ぼす影響についてまとめる。	・天体望遠鏡 ・太陽黒点観察用紙		・さわってみたい、のぞいてみたい。					
展開	9 天体望遠鏡のしくみと使い方の説明を聞く。			【関1-B】望遠鏡の使い方についての説明をしっかりと聞いている。 ・難しそうだな。				（関1）関心がもてない生徒には課外での観察において実際に望遠鏡を操作させるなどして個別に指導する。 （技1）観察記録が的確にできない生徒には、レンズのゴミと黒点の見分け方、方位のあわせ方を観察を通して指導する。 （技1）正確に記録できている生徒には、黒点の数の変化や周辺部の黒点の形に注目して記録し続けるよう指導する。	
	10 天気がよければ天体望遠鏡を使って黒点のようすを観察し、記録のしかたについて確認する。	本時授業中 単元末	一斉指導中 課外活動中	教師 生徒全員	生徒全員 行動観察 記録内容の分析	用具 観察記録用紙	記録方法 授業後、評価記録簿に 観察記録用紙を回収して分析し、評価記録簿に		
終末	11 次時の学習内容について確認する。			・こんどは、惑星のことについて学習するのだな。					

【図理3】 1単位時間の指導と評価の計画の作成の例

## イ 1 単位時間の判断基準について

【表理 4】は、1 単位時間の判断基準について、実際に授業を進めるにあたり、1 単位時間の指導と評価の計画に位置付けた「おおむね満足できる状況 (B)」の他に、「十分満足できる状況 (A)」を設定した例である。

「おおむね満足できる状況 (B)」に達したことで終わることなく、できる限り「十分満足できる状況 (A)」に近づけることも教師の責務である。そのために、1 単位時間の授業を進める際の判断基準では、「おおむね満足できる状況 (B)」と「十分満足できる状況 (A)」を設定する必要があると考える。

【表理 4】 1 単位時間の判断基準の作成の例

観点別評価の進め方			
観点	本時の判断基準	おおむね満足できる状況であると判断する具体的な状況例	十分満足できる状況であると判断する具体的な状況例
	本時の評価規準[方法及び用具]	【 - B】	【 - A】
科学的な思考	【思 1】太陽黒点の移動や形の変化から太陽の特徴を指摘することができる。 [観察・発言分析・ノート]	【思 1 - B】黒点が東から西に移動していることから太陽の自転を指摘できる。または、黒点が周辺部では扁平していることから太陽が球体であることを指摘できる。	【思 1 - A】太陽の自転と太陽が球形であることの双方を黒点の移動のようすを基に理由づけて指摘できる。
関心意欲態度	【関 1】天体望遠鏡による太陽の観察に関心をもち、意欲的にとり組もうとする。 [行動観察]	【関 1 - B】望遠鏡の使い方についての説明をしっかりと聞いている。	【関 1 - A】望遠鏡の使い方についての説明をしっかりと聞き、実際に望遠鏡にふれてみようとしたり、望遠鏡の使い方について質問したりする。
技能表現	【技 1】天体望遠鏡を操作し太陽の黒点の観察を行うことができる。 [行動観察、観察記録用紙]	【技 1 - B】以後の黒点観察を行い観察記録用紙に記録することができる。	【技 1 - A】黒点の数の変化や周辺部の黒点の形のちがいに注目して記録している。 または、感想の中で黒点の数の変化は太陽の自転が原因であることにふれている。

## (6) 理科の研究のまとめ

指導と評価の計画に基づいた授業実践を行い、その結果の分析と考察を通して、明らかになったことは以下のとおりである。

ア 授業の計画段階において、「指導と評価の計画表」を用い、学年(分野)の目標から単元の目標、そして単位時間の目標、さらにその実現状況を把握するための評価規準、判断基準を設定することは、育てたい児童生徒の姿を具体的にすることにつながり、指導の方向性を明確にする上で有効であること

イ 授業の実践段階において、児童生徒の活動を促す教材の吟味を行い「適切な評価方法や用具」を用いて児童生徒の目標の実現状況を的確に把握することは、評価結果に応じた指導と学習内容の定着につながり、自らの指導を振り返る上で有効であること

ウ 現在「何ができているのか」、これから「何に力を入れていけばよいのか」など目標の実現状況を個々に知らせ児童生徒の自己実現に結びつく評価をすることは、次の学習に向けての児童生徒の意欲の向上を図る上で有効であること

以上のことから、理科における「学力」を適切にとらえるための指導と評価の計画が、児童生徒の資質や能力を高める指導と評価を行う上で妥当であるという見通しをもつことができた。

### 3 図画工作/美術科の概要

#### (1) 児童生徒の資質や能力を高める図画工作/美術科の指導と評価についての指導と評価の計画

##### ア 図画工作/美術科における「学力」とは

これまでの図画工作/美術科の目標は「能力」「心情」という順序で設定されていたが、現行の指導要領では「心情」「感性」「能力」という順に構成されている。このことは、造形美術を楽しく学習し、すなわち、自分が向上し、自分のわかる・できる世界が広がる自己実現の喜び、また、愛好する心情を第一に養い、そのための感性や基礎的能力を育てるという生涯学習の基礎作りを中核としている。

この目標を受け、系統的に学年目標が配列構成されている。目標実現のための具体的な内容は教科用図書に集約される。一般に、小学校図画工作科と中学校美術科の学習指導要領に基づく教科用図書の図版資料などを比較すると、カリキュラム上（学習課程の系統性）の連携を考えた場合、一見断続的なものととらえられがちであるが、目標中心の教科性、言い換えれば、目標実現のための「学力」を考えれば、9か年を通しての児童生徒の自己実現を一貫して志向していると言える。

図画工作/美術科における「学力」とは、学習指導要領に記述される内容そのものであり、学ぼうとする力（教科学習への意欲）、学ぶ力（学習スキル）、学んだ力（プロセスも含め表現されたすべての作品）など、単なる作品の巧拙にとどまらず右に示す、9か年を通して培いたい資質や能力に集約することができる。

**《9か年をとって図画工作/美術科で培う資質や能力の観点》**

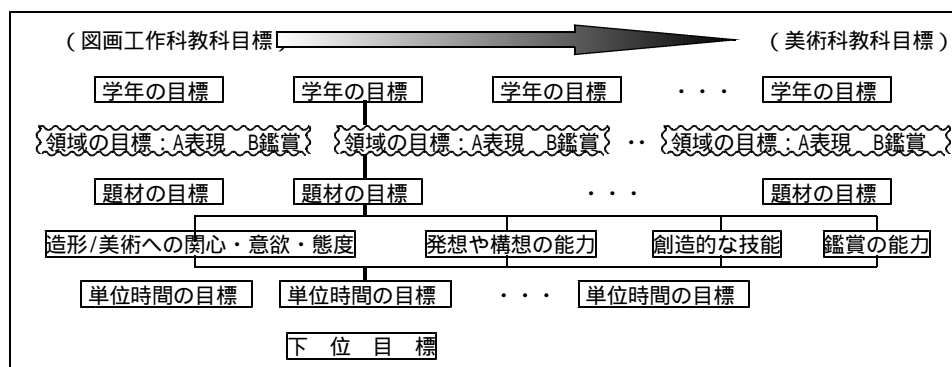
- ・ものの見方・感じ方を深めること（観る力、感じ取る感性）
- ・主題や発想を創出すること（発想力、イメージを浮かべる力）
- ・考えやイメージをまとめ組み立てること（構想力、構成力）
- ・形・色・材料で表す感覚や基礎的技能を身に付けること
- ・創意工夫して、よりよく表すこと
- ・全過程を通じて自己確認すること（自己確認の態度）
- ・作品を通してコミュニケーションや批評をし合い、互いのよさや個性などを理解し合うこと
- ・自分の作品に愛着をもち、大切にすること

なお、図画工作/美術科の学習においては、教科用図書の題材を主として、児童生徒、地域の実態、学校の教育目標などに照らして配列しなおすことから、全国共通教材というよりは、多様性、柔軟性を尊重した独自の学習内容、題材配列となっている。このことを通して、教科目標の実現のため実態に応じ、実感を伴った学習活動を展開する。

#### イ 図画工作/美術科における育てたい児童生徒の姿を具体的にすること

##### (ア) 目標の設定の仕方

【図美1】は、目標設定の手順を示したものである。目標には、教科の目標、学年の目標、単元の目標、単位時間の目標などがある。学年目標は、学年末における教科の達成目標



【図美1】目標設定の手順

である。学年の目標が、各題材の目標に分化し、さらに「造形/美術への関心・意欲・態度」「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」という4観点ごとの目標に細分化する。単位時間の学

習指導は目標を実現するために展開するので、各単位時間の目標は、題材の目標をこの観点ごとの目標に準拠して具体化する。

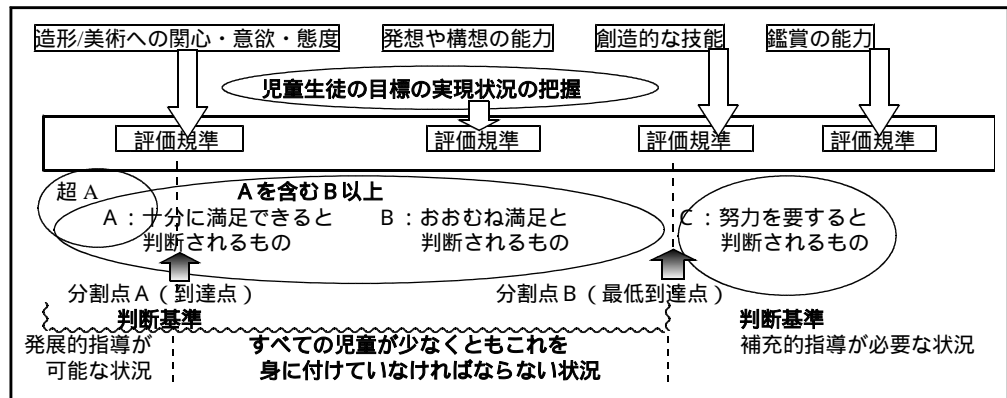
これらの目標は、学習指導要領及び児童生徒指導要録の評価の観点及びその趣旨に基づいて設定するが、題材や単位時間の目標は、より具体的に設定する必要がある。

(1) 評価する内容と評価規準の設定の仕方

学習指導要領の内容そのものが、その教科の評価する内容となる。その各内容を前述の4観点ごとに分類し、観点別の目標を設定する。観点別の目標を設定するのは、学習指導目標の実現状況の把握を分析的に行うためである。したがって、観点別学習状況は、目標の実現状況を把握するときの要素となり、図画工作/美術科の評定を行う場合の基本的な要素となるものである。

設定した観点別の目標の実現状況を把握するために、観点ごとに評価規準を設定する。評価規準は、

おおむね満足できる児童生徒の状況を観察可能な状況として示したものであり、すべての児童生徒が少なくともこれだけは身に付けていなければならない状況に



【図美2】評価規準作成の基本的な考え方

当たる。評価は、目標準拠のいわゆる絶対評価を行うのであるから、B「おおむね満足できると判断されるもの」以上の状況が、どの児童生徒にも実現されるよう明記され実施されなければならない。

【図美2】は、これまで述べてきたことを図に示したものである。

(2) 図画工作 / 美術科の1題材(単元)の指導と評価の計画

【表美1】は、題材の目標から単位時間の指導と評価の計画を『B鑑賞「ペーター佐藤とパステル画」(第2学年)』を例として示したものである。

【表美1】美術科 題材の指導と評価の計画表 B鑑賞「ペーター佐藤とパステル画」(第2学年)

題材目標	画材の制作を通して表現方法や表現形式について理解し、作者の生き方や人間像を知ることにより、幅広い美術表現の可能性やパステル表現のよさや美しさを主体的に味わうことができる。				
題材の学習内容	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	
(1) ペーター佐藤の作品を鑑賞し、作者の表現や郷土のかかわりについて理解する。	目標 作品についての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術のかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わおうとする。		素材を基にパステルの作り方を理解し、分量を調整して、自分の色彩のパステルをつくることができる。	感覚的な素材体験と作者の生き方を理解することで、表現のよさや美しさ、工夫、創造力の豊かさを味わったり、理解や見方を深めたりする。	
(2) パステルを実際に制作し、パステルの独特な表現を確かめる。	評価規準 表現の方法や作者の生き方に関心をもち理解しようとする。興味をもって素材を扱い、美術表現について親しもうとする。		作り方を理解し、素材の調合を適切に行うことができる。自分のパステルを作り上げることができる。	素材体験により感性を働かせて、表現のよさや美しさを感じ取る。作者の生き方を理解することで作者の心情などを深く味わう。自分の価値意識をもって批評したり意見交換したりすることで、作品についての理解や見方を深める。	
(3) 描いてみた感じや作者と親交のあった人の言葉を踏まえ作品をもう一度よく鑑賞する。	判断基準 作品や表現の方法について主体的に見ようとしているか、つがやき、記述、行為から見取ることができる。		材料と用具を正しく扱い制作しているか、行為、仕上がったパステル、記述から見取ることができる。	自分の感性を働かせ、よさや美しさについて指摘しているか、素材体験における行為、鑑賞の記述、発言などから見取ることができる。	
単位時間ごとの計画		評価規準・判断基準			
目標	題材の目標と同じ(2時間扱い)	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第1時	学習内容・活動 作者と郷土との関係について理解し、親しみをもって作品を鑑賞する。(図版資料、プリント)	作者と表現方法に関心をもち、そのよさや美しさ、表現の特質などを感じ取り鑑賞活動に取り組んでいる。 Aとするキーワード ・意欲的に... ・理解を深めようと... 提示された鑑賞資料に興味・関心を示しているかどうかを生徒の様子やプリントの学習状況から判断する。			
					評価結果に応じた指導 評価Cと判断した場合 Cとする生徒への手立て 興味を喚起するためにわかりやすく解説する。



ア 育てたい児童生徒の姿を具体的にすること

(ア) 題材における評価する内容と評価規準の設定について

1 題材の指導と評価の計画表に基づき、単位時間ごとの指導と評価の計画表を作成する。

中学校美術科では、指導に生かす手だてを明確なものとするため、学習指導要領解説に示されている資質能力「表現の基礎的能力」の発揮されている状況から、題材の学習内容と活動にあわせて、評価規準の具体を導き出すことを行った。

【図美3】は題材の学習内容と表現の基礎的能力が発揮されている状況を示したものである。

題材の目標		学習指導要領解説に示されている能力とその説明					
題材の学習内容	表現の基礎的能力	想の構成概念					
		観る力・感じ取る感性	発想力・イメージを浮かべる力	形・色・材料で表す感覚基礎的技能	自己確認の態度	コミュニケーション能力	
題材にてらして、能力が発揮されている状況を具体的な姿で示したものを							
単位時間ごと学習内容・活動		表現の基礎的能力	観る力・感じ取る感性	発想力・イメージを浮かべる力	形・色・材料で表す感覚基礎的技能	自己確認の態度	コミュニケーション能力
第1時	作者と郷土との関係について理解し、親しみをもって作品を鑑賞する。 (図版資料、プリント)	表現の基礎的能力の具体	作品をよく見取ろうとする 作品の情感や雰囲気を感じ取ろうとする 作品のよさや美しさを感じる	作品から作者の表現などについて想像し、自分なりの考えをもつ		自分なりに作品を理解しようとする	
	パステル表現のよさや美しさ、表現の工夫を理解する。		作品をよく見取ろうとする 形や色彩などの特徴に気付く 作品の情感や雰囲気を感じ取る 作品のよさや美しさを感じる	技法や表現の意図について想像し、自分なりの考えをもつ	パスクレヨンなどの経験を基にしながら描画材について理解する	自分なりに作品を理解しようとする 自己と他者の考えを比較し、再確認や新たな構築をする	他者の考えを理解しようとする 作品から感じたことや考えたことを話す

【図美3】「題材の学習内容と表現の基礎的能力」の作成について

また、概ね達成されている状況の具体例を導き出し、指導に生かす手だてを明らかにするために、表現の基礎的能力の関係を学習内容と活動の過程にそって具体的なものにする。作成した「美術科の基礎的能力と評価規準に基づく判断基準の見取り表」を【図美4】に示す。

学習内容・活動	評価の観点 表現の基礎的能力	美術への関心・意欲・態度	
		自己確認の態度	観点と関連した基礎的能力の項目
作者と郷土との関係について理解し、親しみをもって作品を鑑賞する。	評価の規準例 作者と表現方法に関心をもち、そのよさや美しさ、表現の特質などを感じ取り鑑賞活動に取り組んでいる。	・自分なりに作品を理解しようとする。 ・自己と他者の考えを比較し再確認や新たな構築をする。	規準B「概ね満足できる」状況の具体例 ・表現の方法や作者の生き方に関心をもち、理解しようとする。 ・興味をもって素材を扱い、パステルの表現に親しもうとする。
パステルを実際に作ってみることで、色彩や表現の特質などについて感覚的に理解する。	パステルの素材や制作方法に興味をもち、素材を主体的に確かめようとする。	・自分が得た新たな考えや感覚的なことを確かめ、自分なりに作品を理解する。 ・他者の考えを受け止め、自分の価値観をもって作品を見る。	規準B ・自分なりに作品を理解しようとする。 ・他者の考えを受け止め、自分の価値観をもって作品を見る。 ・素材に対する考えや感覚的な感想をもつ。 ・自分なりの視点や学習したことを基に作品を見る。 ・自己と他者の考えを比較し、再確認や新たな構築をする。
仕事をを行った仲間と友人の言葉などから作者の人物像を知り、鑑賞を深める。	に興味をもち、表現方法や表現のよさや美しさについて、主体的に味わおうとする。	とを基に作品を見る。	規準Cへの手だて ・自分が得た新たな考えや感覚的なことを確かめ、自分なりに作品を理解する。 ・自分の視点の明確化を図る。 ・他者の考えを理解を促す。 ・素材にふれたときの感触や感想を思い起こさせる。 学習内容の把握を行わせる。

【図美4】美術科の基礎的能力と評価規準に基づく判断基準の見取り表

イ 適切な評価方法や用具を用いて児童生徒の目標の実現状況を的確に把握すること

本研究の実践においては、目標の実現状況を的確に把握するために、それぞれの観点に合わせて、



【表美2】に示す評価方法及び用具を用いた。

ウ 児童生徒の自己実現に結び付く評価をすること

実践において、児童生徒が目標の実現状況に気付き、学習の進行や改善に役立てる評価の資料として、【表美3】「自己評価のめやす」を用いた。これは、それぞれが目標を達成し、実際にできるかどうかを一覧表から判断し、評価に役立てようとするものである。

【表美2】本研究における評価方法

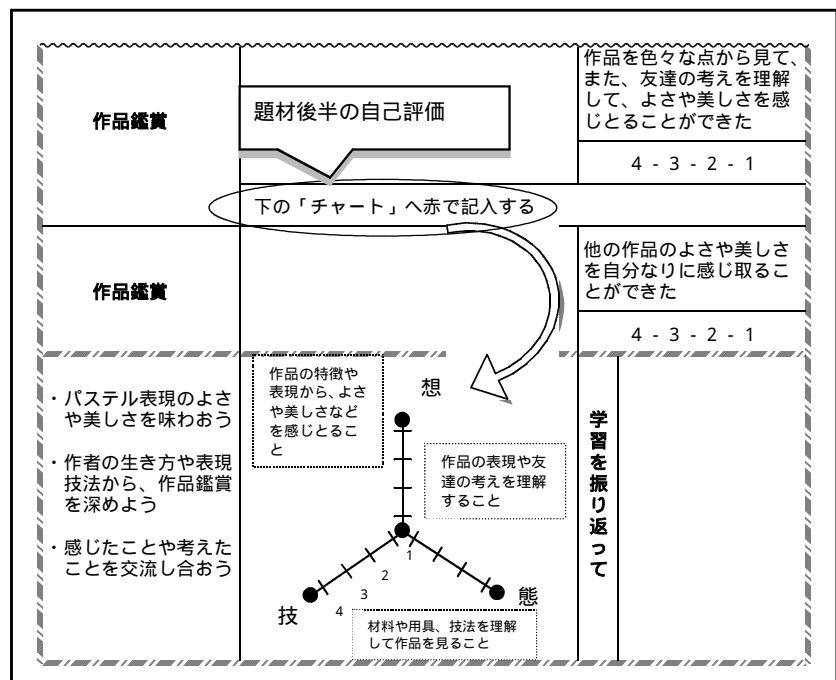
観点別学習状況の評価 題材の評価規準	主な評価方法及び用具
造形/美術への関心・意欲・態度 表現の方法や作者の生き方に関心をもち理解しようとする。 興味をもって素材を扱い、美術表現について親しもうとする。	行動観察、発言、発表、拳手、つばやき、学習シート、自己評価、パフォーマンス評価
創造的な技能 作り方を理解し、素材の調合を適切に行い、パステルを作り上げることができる。 パステルを用いて、タッチを重ねたり、指でこすったりするなど様々な表現の方法を行うことができる。	行動観察、発言、発表、拳手、つばやき、スケッチや作品、学習シート、自己評価、パフォーマンス評価
鑑賞の能力 素材体験により感性を働かせて、表現のよさや美しさを感じ取る。 作者の生き方を理解することで作者の心情などを深く味わう。 自分の価値意識をもって批評したり意見交換したりすることで、作品についての理解や見方を深める。	発言、発表、拳手、学習シート、自己評価、相互評価、パフォーマンス評価

【表美3】「自己評価のめやす」

項目	想	技	態
学習の目標	作品の特徴や表現から、よさや美しさなどを感じ取ること	材料や用具、技法を理解して作品を見ること	作品の表現や友達の考えを理解すること
表現の基礎的能力	観る力・感じ取る感性 発想力・イメージを浮かべる力	形・色・材料で表す感覚基礎的技能	自己確認の態度 コミュニケーション能力
A	作品の特徴や表現の工夫に気付き、よさや美しさを感じ取る ・作品のどのようなところから自分が何を感じたのか説明できる いくつかの見方をしながら作品をながめ、よさや美しさを感じ取る ・何を・どのような方法で・色彩や形から...等、いろいろなる事を基に作品を見ることが出来る パステル制作から、技術や技法を理解して、よさや美しさを感じ取る ・制作して感じたことと作品を関連付けて作品を見ることが出来る	自分の好みや仕上がりを考えてパステルを作成する ・作りたい色彩について理由を説明できる ・作りたい色彩や固さなど、ねらいをもって作る 材料の適切な分量と正しい方法でパステルを作成する ・パステルの固さや大きさ、色の具合をちょうどよい感じにする 形や色彩、材料や用具などから作品の味わいを感じ取る ・形や色彩に注意しながら作品を見ることが出来る ・使われた材料や用具に注意しながら作品を見ることが出来る	作品から自分が感じたことをまとめて表現しようとする ・自分の感じたことや気持ちを文章や発表によって表そうとする 自分と異なる考えや見方を共感的に受け止めようとする ・自分の考えと比べながら発言や説明を聞こうとする ・作品や発表などにおいて、自分と異なる表現を認め、理解しようとする 学習で学んだことを生かして作品や表現を深く理解しようとする ・学習したことを基に自分の考えをまとめるようとする
B	作品の特徴や表現の工夫に気付いて作品を見る 表現の仕方（パステル制作）から作品を見つめ直す 自分なりの見方で作品のよさや美しさを感じ取る	自分の好きな色のパステルを作成する 材料や方法を理解してパステルを作る 色や形、描く方法に気を付けて作品を見る	作品から感じたことを自分なりに表そうとする 説明や友達の発表を理解しようとする 学んだことや考えたことを基に理解しようとする

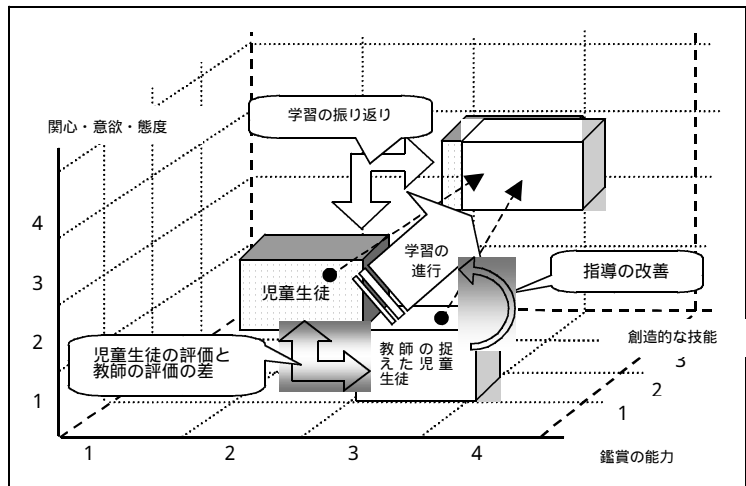
その評価を学習の進行や改善に役立てるために、学習の前半と後半にワークシート上で記述に加え【図美5】のチャートへの記録を行った。チャートの形の変化を確かめることで、個人内評価を行うことになり、各自の目標の達成状況を把握して学習を進められると考えた。

また、教師にとっては、「自己評価のめやす」が、表現の基礎的能力を基にしたチェックリストによる評定法であるため、記された評価を基に指導の改善を図る資料とすることができると考えた。



【図美5】ワークシートの抜粋

さらに、チャートの形状を「見取り評価の地図」に置き換えると【図美6】のようなものとなる。資質や能力の状況を分析的に把握することで、児童生徒が自分自身の学習状況を知り、目標の実現のためにどのようなことに力点を置いて学習したらよいのかを知るめやすとなる。また、教師の捉えた児童生徒像と児童生徒の評価を基にした資質や能力上のレベルの違いとの差が明らかになることによって、現在の指導が適切であるか、どのような資質や能力に注目して指導の改善を図り、めざす目標の実現に結び付けるかが理解できる。



【図美6】「見取り評価の地図」による児童生徒のとらえ

(3) 図画工作 / 美術科の1単位時間の指導と評価の計画

題材の指導と評価の計画表と「美術科の基礎的能力と評価規準に基づく判断基準の見取り表」を基に、単位時間の指導と評価の計画表を作成する。計画表は、単位時間の目標と評価規準、指導と評価、能力と評価結果に応じた指導の関係が明らかになるように【図美7】のような形式で作成した。

目標	描画材の制作を通じて表現方法や表現形式について理解し～ 関心・意欲・態度		創造的な技能		鑑賞の能力	
学習活動における具体的評価規準	表現方法や作者の生き方に関心をもち～		作り方を理解し、素材の調査を適切に～		素材体験により感性を働かせ～	
題材の指導と評価の計画表から転記						
表現の基礎的能力	観る力・感じ取る感性	発想力・イメージを浮かべる力	構想力・構成力	まど	【図美4】における表から、見取る能力、指導の手だてを転記	
内容	ものをよく見取る力～	豊かな情感や考え～	自ら課題解決の方法を～	表現の過程で創意工夫し～	形や色、材料・用具等～	発想から元成までの表現～
段階	時間	指導	評価		美術における表現の基礎的能力	
導入	5	学習活動 本時の目標の確認 本時の目標と学習の内容を確認する	指導上の留意点	具体的な評価規準	判断基準・評価方法	評価結果に応じた指導
展開	5	作品鑑賞 ・作品を鑑賞し、初発の感想を持つ	鑑賞学習シートへの記述 作者と花巻とのかわり、生涯や表現活動の概略を知ることができる。 *チャートへの記入	関心：自分なりの感想をもち、進んで鑑賞に取り組もうとする	鑑賞学習シートへの記入から、表現の特徴や作品について自分なりの受け止めをして記述している 記述：鑑賞学習シート 観察：発言	観…見取る、特徴をとらえる 発…作品や作者への想像 自…作品の理解 コ…作品の感想 表現の特徴などからの印象を自由に表出させる 自分の視点や感じたことを大切にさせる

【図美7】1単位時間の指導と評価の計画表

(4) 図画工作/美術科の研究のまとめ

- ア 図画工作/美術科における資質や能力の観点から、育てたい児童生徒の姿が具体的にになり、指導内容と指導の重点の明確化によって単位時間の効率的な活用が図られ、目標の実現状況の理解から意欲の向上に結び付けられたことから、図画工作/美術科における指導と評価の計画は妥当であるという見通しをもつことができたこと
- イ 日常的な活用のための評価規準や判断基準の一層の検討と評価方法や評価場面の工夫、児童生徒への目標の実現状況の伝え方や個人内評価の工夫について改善を加えること

【主な参考文献】

辻田嘉邦 著, 「造形・美術の教育評価」, 日本文教出版, 2002

#### 4 中学校技術・家庭科の概要

##### (1) 技術・家庭科における生徒の資質や能力を高める指導と評価についての基本的な考え方

中学校技術・家庭科では、実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に関する基礎的な知識と技術の習得を図るとともに、家庭の機能についての理解と衣食住に関する基礎的な知識と技術の習得を図るなど、生活の自立を図る観点から教科の目標が定められている。

この教科の目標をふまえた上で、学習指導要領に示されている内容、生活や技術への関心や意欲を含め、それらを技術・家庭科における「学力」ととらえる。それらは、指導要録の改善通知（平成13年4月）によって示された内容にある「生活や技術への関心・意欲・態度」「生活を工夫し創造する能力」「生活の技能」「生活や技術についての知識・理解」という四つの評価の観点につながるものである。これらの観点は、技術・家庭科の「学力」を分析的にとらえるものであり、生徒一人一人の目標の実現状況を適切に把握し、指導に生かしていくために大切にしなければならないものである。

##### (2) 技術・家庭科の指導と評価の計画

中学校技術・家庭科では、実習や製作など体験的な学習を生活と関連させ、指導単位にまとめて組織したものを「題材」と位置付けている。

技術・家庭科の目標を実現するためには、評価する内容を明確にし、「題材の目標の評価規準」と「単位時間（学習活動における具体）の評価規準」の二つを設定する必要がある。そして、設定した評価規準が実現されているかどうかを判断するための判断基準を設定する。

その際、評価規準は、すべての生徒が身に付けておかなければならない「おおむね満足できると判断される状況（B）」以上を示している。また、判断基準は、設定した評価規準が実現されているかどうかを生徒の具体的学習状況で判断できるように示したものである。実際の評価は、題材の目標や教材内容、学習活動に即して行われるので、評価場面において、具体化しておく必要がある。

【図技家1】は、内容のまとめりごとの評価規準を技術分野Aを例として示したものである。

教科目標と評価の観点及びその趣旨			
技術分野 の目標	実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を育てる。		
評価の観点及びその趣旨			
関心・意欲・態度	生活の工夫創造	生活の技能	技術の知識・理解
ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に関する技術について関心を持ち、生活をよりよくするために知識と技術を進んで活用しようとする。	生活と技術とのかかわりについて見直し、課題を見付けるとともに、その解決のために技術を適切に活用して工夫し創造する。	ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に必要な基礎的な技術を身に付け、その技術を安全で適切に活用できる。	生活や産業の中での技術の役割について理解し、ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に必要な基礎的な知識を身に付けている。
内容のまとめりごとの学習内容と評価規準（内容（3）工具の使用法より）			
(3) 製作に使用する工具や機器の使用方法及びそれらによる加工技術について次の事項を指導する ア 材料に適した加工法を知ること。 イ 工具や機器を適切に使い、製作品の部品加工、組立て及び仕上げができること。			
関心・意欲・態度	生活の工夫創造	生活の技能	技術の知識・理解
加工技術に関心を持ち、目的や条件に応じて、工具や機器を適切に活用しようとしている。 ・製作に使用する工具や機器の種類や用途、及び使用方法を調べようとしている。	材料の特徴と加工の目的に応じて、工具の仕組みを生かした使い方を工夫している。 ・加工の目的や条件に応じて、より適切な工具を選択し、その使い方を工夫している。	製作の目的と製作品に用いる材料に適した加工を行うことができる。 ・加工の目的や条件に応じて、より適切な工具を選択し、その使い方を工夫している。	加工技術に関する知識を身に付け、工具の仕組みについて理解している。 ・加工の目的や材料に適した加工法に関する知識を身に付けている。

【図技家1】内容のまとめりごとの評価規準設定の例

(3) 技術・家庭科の1題材の指導と評価の計画

教科の目標、内容をもとに題材を構成するわけであるが、題材の目標や内容に基づきながら観点別の評価規準として具体的に設定したものが【表技家1】指導と評価の計画表である。

【表技家1】技術・家庭（技術分野A「材料に適した加工法」）指導と評価の計画表

単位時間ごとの計画		学習活動における具体の評価規準（上段）				
		判断基準（下段）				
		生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解	努力を要する場合の手だて
第1時	<b>目標</b> 材料に応じたけがきのしかたを知り、正しく工具を使いながら正確にけがきができるようにする。  <b>学習内容・活動</b> 使用工具を選び、使い方を考える。正確で能率的なけがきの方法を考える。正しくけがきがされているか確かめる。			けがき工具を正しく使い材料を無駄なくけがきができる。  けがき工具を正しく使い必要な寸法にあわせ、材料を無駄なくけがきができる。 （観察・材料表）		きりしろの取り方、材料の繊維方向について、教科書の説明を参考にして作業させる。 切断の順序や残った材料の使いみちについて考えさせる。
第7・8時	<b>目標</b> 塗装方法について知り、用途にあった塗装ができる。  <b>学習内容・活動</b> 塗装の種類について、まとめる。素地磨きをする。塗装をする。		作品にあった塗装方法を選択する。  作品の使用方法なども考え、適切な塗装方法を選ぶ。	用具を適切に使用して、塗装をすることができる。 正しく塗装することができる。	塗装方法と安全性について理解している。  塗装の方法と安全に作業するために注意しなければならないことと言える。（テスト）	刷毛塗りのしかたについて、個別指導する。塗料の種類に応じて使用方法や溶剤が異なることを知らせる。

(4) 技術・家庭科の1単位時間の指導と評価の計画

本研究の題材「材料に適した加工法」において、製作学習場面が含まれている1単位時間の指導と評価の計画例（抜粋）を【図技家2】に示した。

各自の設計図に基づいて、前時の「切断」行程が終わった生徒から切削作業に入る工程である。かんなの使用法について一斉指導を行い、その後、各自の製作に入るところで生徒の実態に応じながら個別指導を行う計画例である。

・単位時間ごとの目標と評価規準・判断基準				
単位時間の目標	切削用工具の仕組みがわかり、正しく切削することができる。			
評価の観点	生活や技術への関心・意欲・態度	生活の技能		
評価規準	工具の仕組みに関心をもち、活用しようとしている。	工具を正しく安全に使い、切削をすることができる。		
判断基準	かんなの構造について関心をもち、その扱い方について考えようとしている。 （観察）	作業中の姿勢や工具の扱いが正しく、形状寸法通りに部品加工をすることができる。 （観察）		
・指導と評価の計画（第4時 材料を平らに削る）				
段階	学習活動	指導上の留意点・手だて	具体的評価規準	判断基準（評価方法）
展 開	3 工具の観察をする。 ・かんなの構造から気付いたことを発表する。 ・安全面で気をつけなければならないことを発表する。 4 かんな、やすりの切削のしくみを知る。 ・ノート、プリントにまとめる。 5 刃の出し方、抜き方を実際に確かめ、切削の練習をする。 6 製作題材に応じた切削作業を行い、部品を加工する。 7 後かたづけをする。 ・正しく安全に後始末をする。	・学習内容を随時確認できるような板書や掲示の工夫をする。  ・作業手順が確認できるような工夫をする。	工具の仕組みに関心をもち、活用しようとしている。  工具を正しく安全に使い、切削をすることができる。	構造について関心をもち、その扱い方について考えようとしている。 （観察）  作業中の姿勢や工具の扱いが正しく、形状寸法通りに部品加工をすることができる。 （観察）
	まとめ	8 まとめと反省をする。 ・気づいたこと、工夫したことを話し合う。 ・実習の反省を記入する。	・個人の反省や感想を評価し次時の指導に生かす工夫をする。	実習を振り返り、自己評価や反省を記入する。  （学習ノート） （プリント）

【図技家2】1単位時間の指導と評価の計画例

## (5) 授業実践の概要

### ア 評価の用具としての自己評価表について

生徒が、授業後にその学習活動を振り返り、自分の学習状況を把握したり、次の学習課題に見通しをもつときに活用されるのが自己評価表である。【表技家2】は、題材ごとの自己評価表の例（抜粋）である。

【表技家2】題材ごとの自己評価表の例

技術分野(ものづくり)「材料に適した加工法」自己評価表 1年 組 番 氏名							
学習項目	月/日	主な作業	目標	自己評価のめやす	自己評価	工夫感想	先生から
1 図面通りにけがこう		・けがき	きりしろや材料の方向について配慮しながら無駄なくけがくことができる。	A 用具を正しく使い、正確にけがきができる。			
				B 必要な寸法にあわせてけがきができる。			
				C 必要な寸法に合わせられず、正しくけがくことができない。			
2 材料を切断しよう		・切断工具の説明や実験	切断に必要な工具、使用方法、正しい姿勢について理解できる。	A 切断に必要な工具の特徴や・使用方法についてわかり、作業の正しい姿勢についても説明できる。			
				B 切断に必要な工具・使用方法・正しい姿勢がわかる。			
				C 切断に必要な工具・使用方法・正しい姿勢がよくわからない。			
		・のこぎりびき	工具を正しく使い正確に切断することができる。	A 材料にあった工具や機器を使って、正確に切断することができる。			
				B 材料にあった工具や機器を使って、切断することができる。			
				C 工具を選択できなかったり、切断することができない。			
3 部品を加工しよう		・かんながけ ・やすりがけ ・穴あけ	工具の仕組みや安全な使い方について関心がある。	A 使い方を工夫したり、工具や機器を安全に使用している。			
				B 工具や機器を安全に使用している。			
				C 安全に使用できない。			
		・かんながけ ・やすりがけ ・穴あけ	安全に配慮して正確な部品加工ができる。	A 部品を検査しながら、適切な工具を使用して効率よく修正できる。			
				B 仮組立をし、修正している			
				C 寸法が合わない状態で、組み立てや接合しようとしている。			
4 組み立てよう		・仮組立 ・接合(くぎ、ねじ、接着剤)	適切な組み立てや接合ができる。	A 材料を合理的に組み立てたり、接合箇所を合理的な方法で組み立てることができる。			
				B 組み立てや接合ができる。			
				C 組み立てや接合がうまくできない。			

この自己評価表では、単位時間における具体的な判断基準を「自己評価のめやす」とし、生徒にとって分かりやすい表現で記述してある。生徒は、授業の終わりの場面でその日の学習について、自己評価をその自己評価のめやすと比較しながらA～Cの三段階で記入した。また、製作の過程で工夫したことやうまくいったこと、失敗したことを文章で記述するものとした。そして、授業後に回収し、次の授業までに教師が適切なコメントでアドバイスをしたり、個別指導に生かす資料として活用した。

また、その結果から実現状況を把握し、指導の計画を修正したり、指導方法について改善したりする手だてとなるものを考えた。

### イ 一斉指導と個別指導について

評価に基づく指導の形態として、学習課題の把握や作業説明等全体に指導が必要な一斉指導と技能的な学習の指導や情意面の指導として効果的と思われる個別指導を位置付けた。特に製作活動では、個別の学習活動が中心となったが、個別指導の総括や成果と課題の共有場面として、一斉指導を設定しながら評価に基づく指導を状況に応じて取り入れた。

### ウ 1単位時間の実践

1単位時間の実践例(抜粋)と観点別評価の進め方について示すと次頁【図技家3】のようになる。特に、習得した知識が技能面で生かされる場面では、個別指導が中心となるため、学習状況を適切に把握しながら効率的な指導と評価の工夫が必要である。

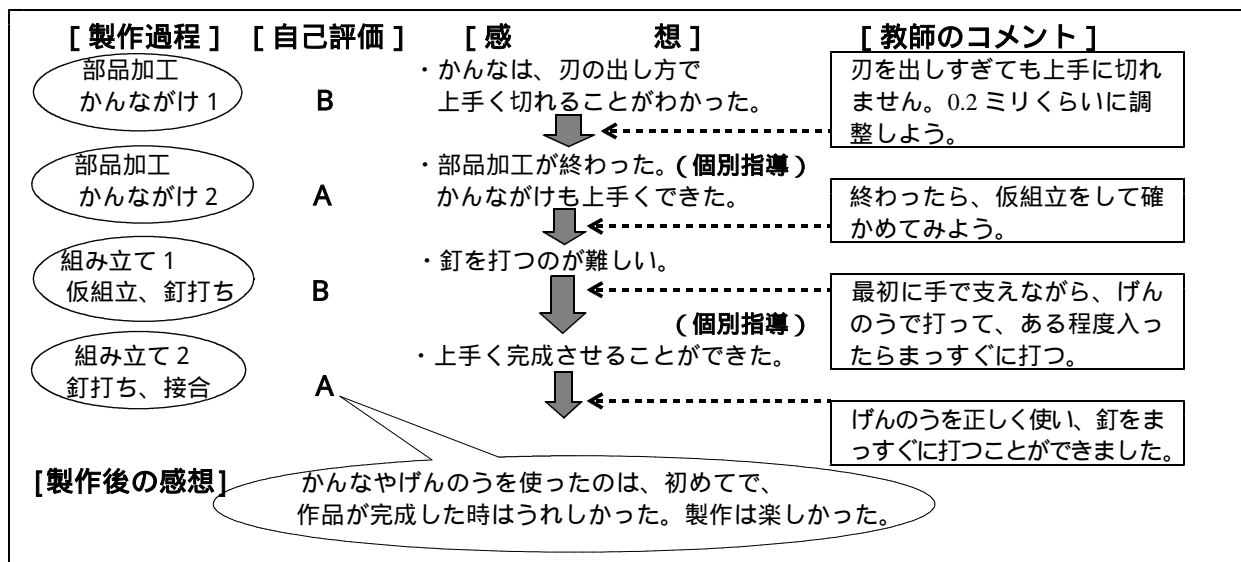
・本時の目標 切断用工具のしくみとその使い方を理解する。				
段階	学習活動	指導上の留意点・手だて	具体的評価規準	判断基準 (評価方法)
導入	1 製作計画を確認する。 ・作業準備 ・工具確認	・自己評価表で確認 ・安全確認 ・のこぎり、金切りばさみ、カッターなどの切断用工具を準備する。		
	2 学習課題を確認する。 ・切断用工具の仕組みとその使い方 ・材料に応じた切断用工具の選び方			
展開	3 工具の使用方法を知る。 ・安全について ・固定方法 ・練習材の切断 ・切断の仕組みを考える	・学習内容を随時確認できるような板書や掲示の工夫をする。 ・手足で固定する方法と道具を使う方法を試す。 ・作業手順が確認できるような工夫をする。 ・個別指導を十分に行う。  ・部品寸法を確認させる。  ・部品を固定させる方法や木目の方向を意識しながら切断させる。  ・作業の進行状況を確認する。	作業台の段差やイスの角を利用することを理解させる。  工具を正しく安全に使う方法について理解できる。	のこぎりの構造について理解し、正しい切断方法について説明できる。(観察)
	4 のこぎり引きの仕組みを知る。 ・縦引き用、横引き用の刃の違いを観察する。 5 製作題材に応じた切断作業を行い、部品を加工する。 学習状況に応じて、成果や課題の共有化を図るため、一斉指導を位置付ける。 6 後かたづけをする。 ・正しく安全に後始末をする。			
まとめ	7 まとめと反省 ・気づいたこと、工夫したことを話し合う。 ・自己評価、反省を記入する。	・個人の反省や感想を評価し、次時の指導に生かす工夫をする。		(自己評価表)
・観点別評価の進め方				
学習活動における具体的評価規準		おおむね満足できる状況	十分満足できる状況	
【知識・理解】 切断に必要な工具やその使用方法、そのときの姿勢について理解できる。 (観察、発表)		・切断工具を安全に使用方法について説明でき、クランプや万力を使って、材料を固定できる。 ・のこぎりの構造を観察できる。	・安全な使用方法について説明できるとともに刃の構造についても違いがわかる。 ・縦引きと横引きの使用場面を説明できる。	

【図技家3】1単位時間の実践例(抜粋)と観点別評価の進め方

### エ 題材における評価と指導の実践例

授業実践の中で、ある生徒の4時間分の学習状況と教師の指導の様子を一部抜粋したものが、次頁【図技家4】である。製作過程における生徒の学習状況と自己評価や感想を加味しながら、教師がコメントを記入した。特に、「失敗した」「難しい」等の感想や自己評価「C」の生徒には、その製作過程においてポイントとなることをアドバイスし、次の授業では個別指導で対応できるようにした。そして、その後の学習状況についても認めたり、励ましたりするコメントを記入し、意欲を高めたり、技能を評価するように心がけた。

その結果、自己評価B、Cと記入した生徒に対して、知識・技能面の指導ばかりでなく、意欲や関心といった情意面の配慮についても全体指導や個別指導の中で考えることができ、授業改善の指針とすることができた。



【図技家4】ある生徒の学習状況と指導の様子

#### オ 手だてに関する授業者の意識

毎時間のねらいが明確になり、それに迫るための具体的な方法を考えようとしたことと教師自身が自分の授業を振り返り、その課題や改善の方法などを工夫しようという意識が高められたことが大きな成果である。また、作品やテストの結果だけでなく、製作学習や話し合い活動、発言内容等からも適切に評価し、指導に生かしていこうとしたことも授業者の意識の中に定着された。

教師にとっては指導の記録となり、生徒にとっては学習の記録となる自己評価表は、学習の見通しを明確にするばかりでなく、課題解決の方法や授業改善の方向を指し示す貴重な資料であり、教師と生徒の共有財産とも考えることができる。題材への関心や意欲を高めるために、さらに活用方法を検討したい。

#### カ 手だてに関する生徒の意識

授業後の感想やアンケートの記述をみると、製作に関するアドバイスや個別の実技指導についての満足感や関心の高まりを書いている生徒が多く見られた。また、自己評価表に記入された教師からのコメントの内容について気を付けながら学習した結果が、次の授業に生かされている生徒が多く見られた。

#### (6) 技術・家庭科の研究のまとめ

指導と評価の計画表は、評価規準が明確化されることで、内容と目標の関係を明確にしなが具体的生徒の姿を描いて授業に臨むことができ、指導が焦点化され、効率よく評価できるようになった。

また、評価規準を設定することで、指導法や教材・教具の整備に見通しをもつことができ、それに伴う評価の準備や総括の見通しをもちながら指導することができた。そして、生徒の自己評価や学習記録が個別指導や授業改善に生かされるものとして累積され、それを活用することにより、生徒にとっても教師にとっても質的向上が図られた。

今後は、製作の過程において評価をする場面を焦点化したり、評価結果を個別の指導に効果的に生かしたりする工夫をするとともに、授業の改善に生かしていく視点として、検討を重ねていきたい。

#### 【主な参考文献】

中村祐治 編集、「技術科教育実践講座 理論編」, 日本文教社, 2002

安東茂樹編著, 「評価規準・評価方法・評価問題づくり」, 明治図書, 2003



## 研究のまとめ

### 【研究の成果と課題】

この研究は、平成13年度から平成15年度の3年間にわたり、小・中学校国語科、小・中学校社会科、小学校算数科・中学校数学科、小・中学校理科、小・中学校音楽科、小学校図画工作科・中学校美術科、小学校家庭科/中学校技術・家庭科、小学校複式算数科、中・高等学校外国語科の各教科で行われたものであり、ここでは3年間の研究の成果と課題についてのまとめを示す。

#### 1 研究の成果

- (1) 児童生徒の目指す姿を明らかにすることができ、指導の重点化を図ることができたこと
- (2) 児童生徒の学習状況の把握が容易になり、評価結果に応じた指導を行うことができたこと
- (3) 学習意欲の向上につなげることができたこと
- (4) 各教科の単元及び単位時間の評価規準・判断基準を作成する際の留意点を明らかにすることができたこと
- (5) 学習指導の計画段階において、学年(分野)の目標から単元の目標、そして単位時間の目標、さらにその実現状況を把握するための評価規準、判断基準を設定することは、育てたい児童生徒の姿を具体的にすることにつながり、指導の方向性を明確にする上で有効であるという見通しをもつことができたこと

#### 2 今後の課題

- (1) 「学力」を適切に把握するための評価規準の精選について検討を加えていくこと
- (2) 判断基準の客観性を高めることができるように検討を加えていくこと
- (3) 評価方法や評価の場面について検討を加えていくこと
- (4) 目標の実現状況を児童生徒個々に知らせるための手立てについて検討を加えていくこと
- (5) 中学校から求められている評定の部分についても検討を加えていくこと

以上のように、「評価は、指導の改善と学習の改善に結び付けていくものである」という考えの基に、3年間にわたり、各教科において指導と評価の計画の作成と実践を進めてきた。本研究の「指導と評価の計画」及び「実践の成果と課題」を、現在、各学校において進められている「評価規準表や年間指導計画の修正・改善」の際の参考資料として活用していただきたいと考える。

### 【3年間の研究協力校】

#### 《平成13年度》

花巻市立若葉小学校 東和町立田瀬小学校 石鳥谷町立石鳥谷中学校 花巻市立宮野目小学校  
岩手県立花北商業高等学校(現岩手県立花北青雲高等学校)

#### 《平成14年度》

花巻市立宮野目小学校 花巻市立若葉小学校 花巻市立太田小学校 花巻市立桜台小学校  
東和町立田瀬小学校 花巻市立宮野目中学校 石鳥谷町立石鳥谷中学校

#### 《平成15年度》

花巻市立若葉小学校 花巻市立花巻中学校 花巻市立湯本中学校